

まるで太陽が二つあるように見えた。強烈な閃光。直後、すべてをのみ込むような音と爆風。街は一瞬で焼け野原と化した。

「地獄のような光景」を語る被爆者に胸を痛め、那須町出身の版画家君島龍輝さん(61)＝広島市西区＝は平和を願う巨大木版画の



制作を誓った。

### 原爆ドームに衝撃

2005年、同市内で個展を開いた際に原爆ドームを初めて訪れ、衝撃を受けた。「この発信力はどこから来るのか」。米ニューヨークを中心に活動してきたが、「広島を知らない自分」

# 人類の悲劇 刻む祈り

## 君島 龍輝さん＝版画家(那須町出身)

に疑問を覚え、翌06年、家族と移住した。

大小さまざまな作品を手掛けながら、巨大木版画の制作に取りかかったのは10年6月。「二つの太陽は悲劇の象徴」と捉え、作品の中央に輝く大きな太陽を一つ据えた。

制作を進める中、悲劇は再び起きた。11年3月、東日本大震災が襲い、故郷は東京電力福島第一原発事故の脅威にもさらされた。「繰り返される人災、天災…。平和がどれほど尊いことか」。込めるメッセージの分だけ、作品は膨らんだ。

「来る日も来る日も一心不乱」に彫り進め、縦横20センチ、横242センチの巨大な作品が仕上がったのは14年8月。制作開始から4年がたった。

### 世界最大の作品に

表現したのは、時空を超

「平和でなければ芸術は生まれない」

えて歴史を旅する男の人生。平和の願いを込め、原爆ドームは被爆前の姿、「広島産業奨励館」にした。その上で翼を広げるのは、

その後、作品は世界最大、最長の木版画としてギネス世界記録に認定された。72回目の「原爆の日」を迎えた今月6日、君島さんは原爆ドームの前にいた。毎年裏方として支える被爆ピアノのコンサートは、今年で10回の節目。穏やかな音色を奏でるピアノを見詰

め、「平和でなければ芸術は生まれない」と柔和な表情を浮かべた。いくつもの涙が染みこんだこの地で、彫刻刀を手に平和の祈りを刻み続けている。

72年前の8月6日、人類史上初めて核兵器が投下された「ヒロシマ」で、平和を願う本県関係者が活躍している。広島・平和記念式典を取材した本紙記者が、ヒロシマに生きる「とちぎ人」を訪ね、それぞれが抱く平和への思いと向き合った。(佐野恵)



平和を願い彫り上げた巨大木版画の一部を前に、場面を説明する君島さん＝広島市安佐北区